



夏
2024

vol 167

観光 たかさき TAKASAKI

高崎まつりは
こうしてはじまった



1975年の高崎まつり

高崎の夏の一大イベント高崎まつり。昨年の来場者は、約90万人。今も昔も、高崎市街地にもっとも人があつまる、熱い2日間だ。ひとたび高崎駅西口に降り立てば、おはやしや太鼓、多くの人々の活気に包まれる。当日は、山車や神輿の巡行など伝統芸能を中心に、出店が並び、初日の夜を彩る花火大会など内容盛りだくさんで行われる。そんな高崎まつりが今年、50回目を迎える。

高崎まつりの特徴ともいえるのが、地域の風習や伝統、寺社の祭りとは由来が異なる祭りであること。市民が立ち上げ市民がつくる祭りは、初回の1975年(昭和50年)には全国的にも珍しいものだったという。50回目を前に、高崎まつりがどのようにして生まれたのか。第1回目を振り返りながらそのルーツを探る。

高崎まつりは
こうしてはじまった



高崎まつりの歴史

- 1975年 オイルショックにより「市制75周年事業」を市が断念した。
町内からの山車を引きたいという希望があり JC(高崎青年会議所)が「高崎ふるさと祭り」と名付け高崎市の参画も補助金もない中、開催した。
「高崎ふるさと祭り」は、神社の祭事と違い【市民の誰もが参加でき参加した人々が連帯感を持てる祭り】をコンセプトにした。行政が参加しない祭りのため、各町内に参加を呼びかけ、23町内の協力で山車巡行も行う事が出来た。
JCは、75周年の記念行事として、一度だけのつもりで開催した「高崎ふるさと祭り」だったが、手作りの祭りが好評を博し、毎年続ける事になった。
- 1976年 資金集めの為、ワッペン販売を開始。高崎市青年商業者研究会・高崎青年経営者協議会等の諸団体も参加。
- 1980年 市制80周年。市から補助金を受け、高崎市内の山車(34台)が出場。
- 1984年 技能祭を同時開催
- 1985年 市制85周年を記念し、「高崎まつり」に名称変更し市が祭りに参画する様になった。しかし、「高崎ふるさと祭り」を引き継ぐ意味から「第11回高崎まつり」として開催された。実行委員長を高崎観光協会の理事長が務め、観光協会内に実施本部を置いた。実施本部は、山車祭り保存会と、青年6団体(高崎青年会議所・高崎青年経営者協議会・高崎青年商業者研究会・高崎問屋街青年経営者研究会・高崎電気工事協同組合・高崎水道工事業協同組合)により運営された。
- 1990年 市制90周年を記念して全町内会に山車の参加要請。36台出場。高崎まつり写真コンクール開催 自由参加イベント等、山車の無い地域の人も参加できるイベントを多数始めた。
- 2000年 市制100周年を記念して全町内会に山車の参加要請。38台出場。
- 2003年 高崎伝統文化保存会、高崎氏子会発足。
- 2006年 平成18年に合併して新しい高崎市となり、実行委員会も新組織になり、第32回高崎まつりが始まった。「みせるための祭」として、三本柱(花火・山車・神輿)が主旨の高崎まつりがスタート。
- 2010年 市制110周年を記念して全町内会に山車の参加要請。38台出場。
- 2024年 第50回 高崎まつり開催予定。



第1回目の高崎まつりは、1975年の8月17日に「高崎ふるさと祭り」として開催された。主催は、高崎青年会議所(以下、JC)。その年の5月より準備がはじまったという記録が残っている。

「とにかく急ピッチで仲間と実施に向けて動いた。本町にあった祭りの実行委員長の会社を事務所にして、みんなで毎晩深夜まで会議をして」と話すのは、当時企画の中心として奔走した根岸良司さん。JCのメンバーとして、祭りの準備と運営に携わった。「あの頃のJCメンバーは、なにか街のことに役立ちたいという若者が多くて、勢いがあつたよね。お祭りの準備に一生懸命になりすぎて、勤めている会社から

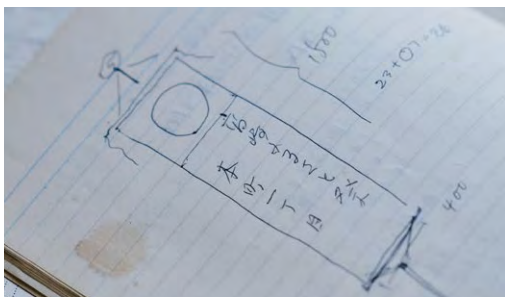
怒られたメンバーもいて」と子供の遊びコーナーを担当した清水一也さん。今回は、1回目のふるさと祭りに携わったお二人に、貴重な資料とともに当時の様子聞いた。

山車からはじまったまつりの企画

75年は、73年におこったオイルショックにより日本経済は不況と物価高になった。高崎市は、その年市制75周年だったが、そのあおりを受け、周年イベントの予算を消滅。それまで市制の周年に合わせて行っていた山車巡行を中止とした。特に山車巡行については町内からの要望が高く「どうしても行えないのか」という声があがったとい

う。JCも高崎市に働きかけたが、結局のところ予算は増えないとの決定だった。JCのメンバーは、それならば、山車巡行をJCのイベントとして実現しようではないかと決定した。「まずは手分けをして市内に35ある山車をもつ町内をまわり、山車を出場させてくれないかとお願いにまわったんです。ただ予算はなく町内の自力で出てほしいというお願いとまつりの趣旨を理解してもらうのに「苦勞。みんなで説得してまわった」という。説得にはJCのOBも動いてくれたそう。

75年6月19日付の読売新聞の記事には「青年の手で復活へ」との見出しでJCが祭りを行うことを掲載している。「初めて



75年は、コミュニティの崩壊や地域社会の再構築がうたわれていた世の中で、当時のJCには「草の根運動」という流れがあったという。これは地域に密着したものを掘り起こして紹介しようという運動で、高崎の郷土芸能を見直して紹介し、人々とのふれあいを見つけるという取り組みで、

ふれあい運動

ということもあり、とにかくメディアがとりあげて盛り上げてくれた」と話し、結果として23町内の山車が巡行に参加することになった。

山車の巡行をするのであれば、JC内にあるいくつかの委員会で取り組んでいる事業も同時に開催し、お祭りにしようという話となり、山車の巡行から様々なイベントを同時開催する高崎ふるさと祭りを、人の多く集まるお盆に行おうと決定した。

(上)1975年の新聞記事。メディアに大きく取り上げられたことにより、賛同する人も増えていったという。

(下)参加した山車の町内に配布したというのぼり旗。デザインは水原徳言。

その中で「祭り」開催への関心が高まっていたときであったという。

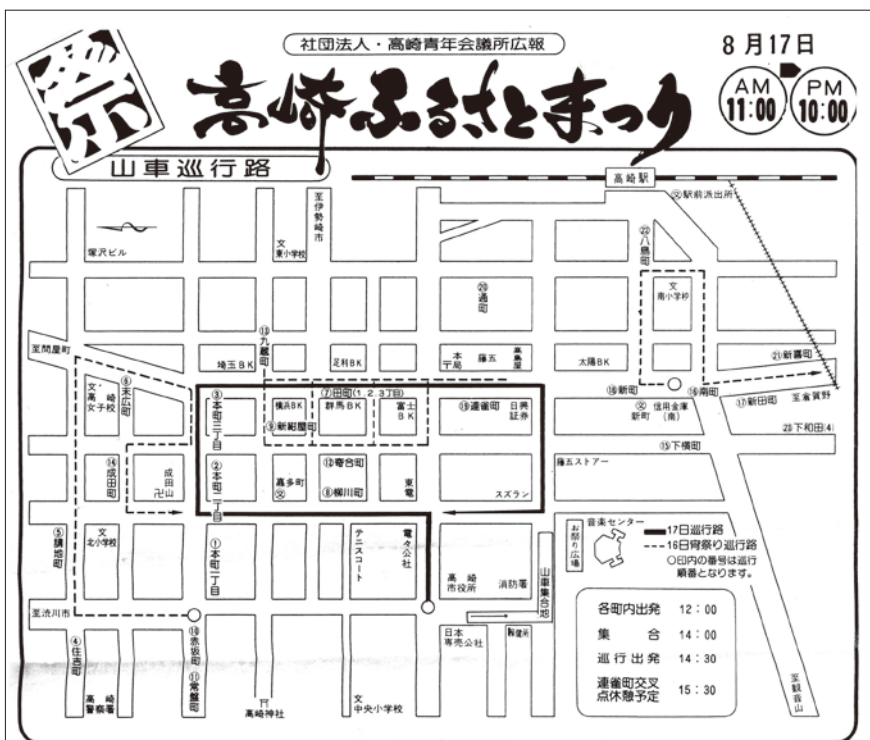
その流れを汲み、ふるさと祭りは商業ベースや観光的なお祭りではなく、地域にある物を大切にしながら、市民の立場から市民による手作りのお祭りをしようと決まった。自ら作り参加すること。これを超えることで、祭りが思い出となり、郷土のほこりとして、高崎に対して「ふるさと」と感じるにつながらる。

祭りのスローガンは「ふれあう心・ふるさと高崎」「ふれあい」と「ふるさと」がキーワードとなった。

1回目の内容は…

山車の巡行からスタートした高崎ふるさと祭りの企画は、徐々に多くの市民を巻き込むかたちで、大きなものになっていった。

メイン会場は、群馬音楽センター前の



●音楽センター内の行事●

- 呈茶席
- 作文コンクール表彰式
- 獅子舞・神楽
- 記念講演(無着成勲氏を
迎えて)
- 「子供と教育」
- 群馬記念演奏会
- 高崎ふるさと祭り
- 本部 TEL25-6910
- (17日のみ)
- 警備本部 TEL25-6907・6909

●音楽センター外に於ける行事●

- AM11:00 ① 交通規制開始
- PM12:30 ① 子供の遊びコーナー・どじょうつかみ
- PM13:00 ① (交通安全教室)
- PM13:30 ① 竹うま・竹こんぼろ
- PM14:30 ① 山車巡行出発
- PM16:00 ① フォークダンス
- PM18:30 ① 盆おどり
- PM19:00 ①
- PM20:30 ① 花火(鹿島の日)
- PM22:00 ①

★17日(当日)午後2時から3時30分まで群馬テレビにて実況中継を行います。再放映は午後10時15分から11時45分まで

広場と現在のもてなし広場にあった当時の市庁舎と図書館。山車巡行は、一部道路を車両通行止めにして行われた。広場や交差点、街の中にあるものは全て生かそうという考えから場所が決まった。

音楽センター前では、「子供の遊びコーナー」。竹馬、ベーゴマ、メンコ、ポックリ、タガ廻し、どじょうつかみなどが行われた。企画したのは担当だった清水さん。

「僕らの知っている限りの子供の遊びを今の子達に伝えようということになり、遊びの内容を決めました。メンバーで材料を集めて、竹馬やボックリなどは手作り。チケットを印刷して配ったら、当日は多くの子供が集まってくれました」夜間には、鹿島の七日火が行われ、そのほかにも盆踊り、民間伝承芸能まつりとして、大八木町の獅子舞と上小埸町の太々神楽の披露など、内容盛りだくさんだった。また記念講演として教育者無着成恭氏による講演会も行われた。

「開催に向け市民の関心も高くなり、だんだんと理解が得られるようになってきた。群馬交響楽団にもなにかしてくれないかと話をもていったら、記念演奏会を開催してくれることになった」そうして1回目の高崎ふるさと祭りは、多くの市民が参加して開催された。

50回目をむかえて

当時の資料をみると1回目のふるさと祭りには「第1回」とついでいない。それは、当初は市制75周年を祝う1度限りのものとして動いていたからだそう。ただ「今後も続けてほしい」という市民からの反応がよかったこととJ.Cをはじめとした青年団体が盛り上がったことで、継続して行われることになったそう。伝統芸能を披露した町内からは、普段は街の行事として行っていたことを多くの人に見てもらえて

よかったと評判も高かったそう。

清水さんは「1回目の花火は、今のようには河川敷ではなく音楽センター前から上げたんです。今のルールでは考えられないです。お祭りを作ったJ.Cメンバーは、このお祭りをきっかけに、公共の場所の使い方やこのような施設が、道路があつたら」と街に関心を持つようになって、その後の高崎の街づくりのきっかけになりましたね」と祭りをきっかけに多くの人が街への関心を持ったことが継続した理由ではないかと話す。

根岸さんは「当初は単なるイベントとして企画した祭りが、本当の意味での祭りになったからだと思う。地域には、年齢も職業も全く違う様々な人が暮らしているけれど、祭りの開催を通して、一つになった。



お互いへの協調性や団結を強めることにつながったからではないだろうか」と振り返った。町内の大きな決断により実現した山車の巡行、J.Cメンバーによる運営。高崎ま

は、8月末に50回目の開催を迎える。恵やお金を出し合い市民のお祭りとして生まれ、育まれてきた。今年もそうして引き継がれてきた祭りは、8月末に50回目の開催を迎える。





群馬県最大規模の夏祭り「高崎まつり」。開催日2日間は、高崎駅周辺からもてなし広場にかけて、木遣り、和太鼓、阿波踊り、盆踊り、神輿のみみ合いなどが次々と行われ、沿道の来場者と一体となって盛り上がります。同時開催となるのが、「高崎山車まつり」。高崎は、江戸型山車の保有台数が日本一で、毎年輪番制で豪華絢爛な山車が登場、まちなかを巡行します。そして祭り最大の魅力は、50分間の間に1万5千発もの花火が夜空を彩る「大花火大会」です。「高崎市技能祭」は、はしご乗り実演、だるまの絵付けなど様々な分野の匠の技を紹介、体験する祭りです。熱中症対策は万全に。高崎で1番熱い2日間にぜひお出かけください。

●お問い合わせ

高崎まつり実行委員会

TEL.027-330-5333

<https://www.takasaki-matsuri.jp/>



※技能祭については、高崎市産業政策課 TEL027-321-1255

第50回 高崎 まつり

- 第50回 高崎まつり
8月24日(土)、25日(日)
- 第22回 高崎山車まつり
8月24日(土)、25日(日)
- 大花火大会(荒天の場合は翌日に順延)
8月24日(土)
- 第41回 高崎市技能祭
8月24日(土)、25日(日)

interview



高崎まつり実行委員長
安藤震太郎

夏の風物詩である「高崎まつり」は、今年で50回目を迎えます。

市民総参加型の祭典として発展してきた高崎まつりでは、市民のエネルギーを集結させ、山車や神輿、和太鼓、阿波踊りなどの伝統文化の団体が熱気あふれるパフォーマンスを披露し、みなさまをお迎えします。

今年のスローガンは、「リスタート～未来を見据えた持続可能な高崎まつり～」。

今日まで各青年団体の方々が一生懸命作り上げてきた高崎まつりを、未来の子供たちに継承していく事に力を注いでいきたいと思います。

会議を重ねるごとに実施本部員同士が中を深め、1つのチームとしてできあがろうとしつつあります。今年のスローガンは「リスタート～未来を見据えた持続可能な高崎まつり～」。

第50回という節目の年に、実施本部長という職を任せられ、様々な方に支えて頂いております。私が思う最高の第50回高崎まつりを最高の仲間と共に作り上げたいと思います。来場者の皆様には、ぜひとも開会からご参加頂き、高崎まつりが誇る花火に神輿に山車、その他の様々な企画を楽しんで頂き、2日目には纏披露から始まる巨大だるま運行からのフィナーレと2日間とも高崎の中心市街地が最大限に盛り上がります。今年の夏の終わりに、最高の思い出を高崎まつりでつくっていただきたいと思います。



高崎まつり実施本部長
杉本 篤志



●お問い合わせ

高崎観音山 万灯会実行委員会(慈眼院)

TEL.027-322-2269

<https://takasakikannon.or.jp>

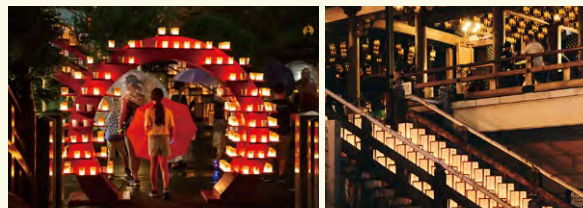


■ 第28回 高崎観音山 万灯会

9月21日(土) 午後5時～午後9時

会場:観音山(参道～白衣大観音他)

毎年夏の終わりを告げるお祭りとして8月下旬に開催されてきた観音山万灯会。今年は秋のお彼岸時に日程を変更し行われます。暑さも収まり日没時間などを考慮するとちょうどよい時期。虫の音の賑やかな秋の夜の観音山で静かにご先祖を偲びつつ観音さまに灯明をお供えするにはふさわしい季節です。ほぼコロナ以前の規模に戻し、各種イベントを楽しみながら、1万を越える灯明と1500基の灯籠に照らされ浮かび上がる参道を日頃の感謝と精進の思いを込めてお詣りください。



■ 第35回 高崎音楽祭

9月28日(土)～10月14日(月・祝)

会場:高崎芸術劇場

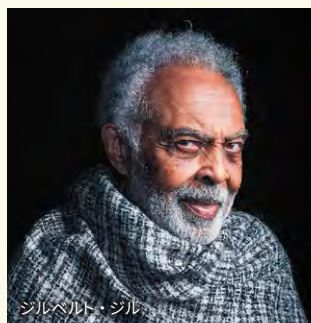
高崎の秋を彩る「高崎音楽祭」。1990年から続く「音楽のある街高崎」を象徴するイベントとして今年も多彩なジャンルのアーティストが集い、17日間にわたって大きな感動を与えてくれます。会場となるのは、高崎芸術劇場。群馬交響楽団によるオープニングコンサートから始まり、ゴスペラーズ、熱帯JAZZ楽団、石川さゆり、そしてブラジルの巨匠ジルベルト・ジルなど音楽祭ならではのラインナップで、各アーティストが通常のツアーなどではなかなか観られない、スペシャルなステージを繰り広げます。音楽のチカラと感動を届ける高崎の秋の祭典をお楽しみください。

●お問い合わせ

高崎音楽祭事務局

TEL.027-322-9195

<http://www.takasakiongakusai.jp>



ジルベルト・ジル



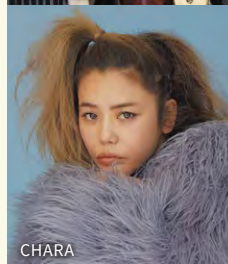
石川さゆり



熱帯 JAZZ 楽団



中西圭三



CHARA



Oval



ケーキの他プリン、ゼリー、パイなども店頭に並んでいる

いつの時代もみんなに愛された甘い味。
高崎の老舗菓子店をご紹介します

昔も今も 高崎で愛される

洋菓子×和菓子

第1回

ラ・メーゾン

1946年、高崎の洋菓子は ここからはじまった

戦後の高崎を文化や芸術活動によって復興させようとの思いから発足した高崎市民オーケストラ。その活動場所となったのが、田町にあった呉服店の一棟。2階はオーケストラの練習場、そして1階に、1946年、演奏ステージのある喫茶店として開店したのがラ・メーゾンです。店名はラ・メーゾン・ドゥ・ラ・ミュージック（音楽の家）から。創業者の孫にあたる三代目米山大介さんによれば、モダンな内装の喫茶店には高崎の音楽家や画家、文化人が出入りし当時の最先端があったそう。「音楽が珍しかった時に生の演奏を楽しめる場所として、コーヒーを出す店もまだまだなかったので繁盛したようです。ここではじめてコーヒーを飲んだという人も多かったようです」喫茶店の売り上げは、オーケストラメンバーの出演料に充てていたというエピソードも。市民の応援を受け、その後市民オーケストラは群馬交響楽団に。群響発祥の地として、高崎の喫茶店の先駆けとしてラ・メーゾンは、戦後の高崎を語るうえでは欠かせない存在です。



店の前半部分が菓子の販売、奥が喫茶スペース

やレアチーズケーキなど新旧のメニューが揃います。焼き菓子も贈答用として長年愛されています。繊細な作業を得意とする米山さん。最近力を入れているのが結婚式や誕生日用のオーダーメイドケーキです。「ずっとお店を続けてねというお声がけを励みに、歴史を大切にしながら、これからも菓子作りに取り組んでいきたいですね」老舗ならではの飽きのこないスタンダードな味、長年変わらぬ包装紙と創業時から変わらない店名のフォント。ラ・メーゾンは、これまでもこれからも愛される高崎の洋菓子の入門店といえるでしょう。



【ラ・メーゾン】

- 高崎市田町24
- 営業時間: 9:30-17:00
- 定休日: 水曜



フランスで修行経験のある現在の店主大介さん



昭和30年頃の店内の様子



高崎観光協会 会報 夏号 Vol.167 令和6年8月1日発行

発行 一般社団法人 高崎観光協会

高崎市八島町222(高崎モントレー2階) Tel.027-330-5333

<http://www.takasaki-kankoukyoukai.or.jp>

制作 株式会社 SDI総研

SUMMER
2024



Kankou Takasaki / PAGE. 08